

第12回金融教育に関する小論文・実践報告コンクール

推奨実践事例賞

研究校部門

地域を通じた体験的な学びから、 社会的自立を目指した金融教育の実践

～定時制高校から見たこと～

岡山県・倉敷市立精思高等学校・金融教育委員会

教諭 小津野 純

教諭 安藤 裕子

教諭 田辺 大蔵

教諭 芦田 亮介

教諭 矢吹 志郎

知るぽると

www.shiruporuto.jp

© 金融広報中央委員会 2015

1. 実践の目的

生徒に金融に関するアンケート調査を行ったところ、就労生徒の約半数が、携帯料金や遊興費のために仕事をしており、貯金をしていないという実態が浮かび上がった。そこで本校が目指す教育に掲げる「社会で生き抜く力を持った生徒を育成する。」と、研究校の目的にある「現在および将来の生活を支える金融・経済に関する正しい知識の習得または金銭や物に対する健全な価値観の養成を図る。」を踏まえ、生徒に「お金やモノを大切に作る心や知恵」と、「金融や経済に関する基本的な知識・技術」の2つの力を身に付けさせる取組を計画・実践し、これからの社会生活においてそれらの力を実践できる能力と態度を醸成することを目的とした（資料1、2）。

2. 学校全体での取組

(1) チャリティーバザー（資料3）

「もったいない」精神の下、商品としての価値を十分に有しながら、諸事情により販売できなくなった素材を譲り受け、本校生徒が商品化した物および企業から譲り受けた商品を販売することで、商品開発ならびに仕入れ、製造、販売のための知識や技術、マナーを身に付けるとともに、その収益金を東日本大震災被災地ならびにカンボジアの子どもたちに寄贈する活動を通して社会に貢献する態度を養うことを目的としている。

まず全校生徒にチャリティーバザー開催の意義や目的を理解させるため、第1回のチャリティーバザーの様子や、コンビニの弁当が年間どのくらい廃棄されているか、またカンボジアでは子どもたちが学校へも行けず、毎日働いている現状などについて、教員がオリジナル動画を作成し、放映した。

次に具体的な取組として、商業科4年生は授業において、企業へ商品提供を依頼する文書の作成・発送、商品の検収、在庫管理、値決めを行い、当日の販売、そして売上計算を行った。また協力企業から外部講師を招いて、販売・接客指導や服のたたみ方など実践を交えて講習を受けた。

その他の生徒においても、LHRや商業科目の授業、総合的な学習の時間などを利用して、役割分担に基づいて活動を行った。

この取組を通して、お金やモノの大切さだけでなく、お客様からいただく励ましの言葉や笑顔に充実感やありがたさを感じるとともに、社会貢献活動の大切さを実感したと考える。

(2) 「お金」をテーマにした作品展示（資料4）

文化祭展示を通して、身近なお金に関する問題に対して生徒たちが協力して調べ、考え、まとめ、そして発表した。保険や貯金、子育てにかかる費用など幅広くお金に関する内容を取り上げていた。

テーマを「お金」に設定したことで、多くの生徒が就労により収入を得ていることもあり、興味関心を持って活動に臨んでいた。これからの生活を支える金融・経済に関する正しい知識を、主体的、かつ協働的に習得しようとする態度が見られた。これは終了後の生徒アンケートにおいて「この取組は良かった」と約80%の生徒が答えたことから分かる。この取組を通して、本校が目指す教育にある「社会で生き抜く」ためにかかる様々な費用について理解を深めたと感じている。

(3) 公開授業および講演会（資料5）

公開授業および講演会を通して、金融・経済に関する正しい知識の習得または金銭やモノに対する健全な価値観の養成を図ることを目的に、以下の公開授業及び講演会を実施した。

科目（教科）	授業テーマ	授業内容	クラス
ビジネス基礎 （商業）	社会を豊かにするためのお金	本校が取り組んでいるチャリティーバザーを取り上げ、お金は使われている地域や人々、またその使われ方によって多様な価値を持っていることに気付かせた。そして、社会や人々の暮らしを豊かにするお金の使われ方について考察させた。	1年B組
日本史A （地歴公民）	物価変動から考える流通システム	江戸時代末期の開港・貿易の影響による流通システムの変化のポイントを物価の変化から見極めさせ、現代の流通システムとの共通点を考えさせた。	3年商業科

科目(教科)	授業テーマ	授業内容	クラス
家庭総合 (家庭)	いのちを育むお金	出産費用や、乳幼児の衣・食・住や保険に必要な費用を調べさせた。また、保育園や幼稚園、習い事や遊び・レジャー等の費用、そして将来高校や大学・専門学校で必要となる教育費について知り、長期経済計画の重要性を考えさせた。	3年普通科

多くの生徒がお金に^{まっ}纏わるトラブルをどう防ぐか、お金とどう関わっていくかなどについて知識を深めるとともに、身近なお金の問題についてもっと具体的な事例を知りたいと感じている。高等学校としては、社会人としての基礎的な素養やマナーを習得させるという観点からも、金融や経済について学ぶ機会をさらに増やしていくことが必要である。

3. 授業や学年での取組

(1) 「お金やモノを大切に作る心や知恵」を育む取組

(ア) 新聞作り(3年 現代文)

チョコレート原料のカカオ豆の国際価格決定の仕方や、商品先物取引、金融投資の問題、さらにはフェアトレードの重要性を児童労働の実態を知ることによって学習させたいと考えた。

情報格差解消のために、新聞を情報源に設定し、まず新聞にかかる基礎知識をまとめ、その読み方を学習させた。その際、複数の新聞を使い、偏りがないよう心がけた。

さらに、世界の子どもを児童労働から守る国際協力 NGO が作成したワークショップ教材をベースに、本校用にアレンジし、ガーナの農家の実態を体験できるよう工夫した。また、映像等を使って、総合的にカカオ豆の国際価格決定の仕方等を学習できる教材を作成し、授業展開した。

続いて、チョコレートから各種商品に拡大して学習することを通して、私たちの消費者としてのスタンスをそれぞれが持つよう授業展開した。先進国と途上国の経済格差などに加え、チョコレートの原料となるカカオ豆の産地のガーナやコートジボワールなどで教育を受けられずに収穫作業を強いられている児童労働の現状などを復習させた上で、フェアトレードの仕組みなどの調べ学習を展開した。

そして、学習した内容を、グループごとに様々なテーマで新聞作りをすることでまとめさせた。途上国で作られた農産物や生産物を公正な価格で取引することで、弱い立場にある途上国の生産者や労働者の生活を改善し、自立を促すフェアトレードについてまとめることができた。

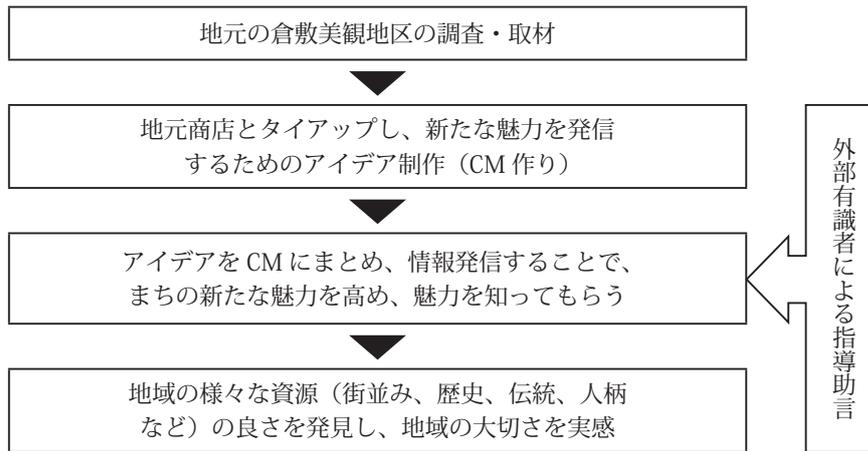
チョコレートという身近な商品の背後にある、教育や生活などの日常が経済の影響を大きく受けていることを学ぶことができた。そこから、適正な価格で継続的に輸入したり購入したりして、生産者の安定した生活を支えることができるフェアトレードという概念を知り、その利益で地域社会を発展させる方法を学ばせることもできた。

(イ) 一校一品運動(4年 課題研究、資料6)

この活動は商業学科を設置する学校がそれぞれ地元企業と連携・協力して商品を開発し、販売活動を通じて、商品の仕入・販売・経理の一連の流れを実践的に学ぶとともに、地域の活性化に貢献する取組として行っている。

本校は、4年前から岡山に本社を持つアパレルの製造・販売を展開する会社と協力し、利益はすべて東日本大震災復興支援に充てることを目的に活動を継続してきた。生徒は商品の開発はもとより、原価や目標販売数量、アンケート調査を基に、販売価格や仕入数量、アイテムカラーを決め、販売活動を行った。1つの学校で1つのアイテムということもあり、ターゲットや販売機会に加え、損益分岐点となる売上数量を考えるのに何度もシミュレーションを行った。しかし、目標とする売上には届かず、なかなか計画通りには運ばないことを実感するとともに、失敗から今後の資金計画を立てることの大切さや、顧客年齢層による嗜好や経済状況の違いから消費活動が変化することなど今後の生活に役立つ糧を得ることができた。

(ウ) 岡山まちの夢学生発☆実現プロジェクトへの参加（1年 社会科学入門、資料7）



(2) 「金融や経済に関する基本的な知識や技術」を身に付けさせる取組

(ア) 銀行員による金融教育講座及び経済ゲーム体験（3年 総合的な学習の時間、資料8）

銀行員から身近なお金かどのように世の中を回っているのか、お金に関するトラブルに巻き込まれないために注意すべきことは何かなど、具体的な事例を用いて説明を受けた。

講演後、経済 TCG エコノミカを利用して、資産形成に必要な戦略的思考を鍛えるカードゲームを行った。このゲームを通して、生徒からは「新聞やテレビで使われる経済用語を自然に覚えることができた」「社会の出来事が資産にどのような影響を与えるか理解できた」との感想があった。

(イ) 金融機関見学（1年 総合的な学習の時間、資料9）

キャリア教育の一環として、実際の現場を見学することで、社会を生き抜いていく力を考えるとともに、将来の進路選択の幅を広げる機会を与えることを目的に地元金融機関を見学した。

生徒は、株価ボードの前に「オリンピックに向けて値上がり期待できそうな銘柄は何か」といった質問や、1億円の模擬紙幣を手に「こんなに重いとは思わなかった」といった感想を口にするなど、学校では学ぶことができない貴重な体験ができた。

また終了後の感想には、「銀行が金融商品を扱うようになりお客の選択幅が増えた分、行員は様々な資格を取らないといけなくなったので大変だ」、「コンピュータや機械が導入される前は、勘定経理や金利計算はそろばんを使って行っていたのを初めて知った」など、実際の銀行現場において金融に関する資格取得の必要性や商業科目で学習する知識や技術が生かされていることを体験的に見聞きすることができた。

(ウ) 外部教材を活用した教育実践（2年 総合的な学習の時間）

生徒があるテーマパークの経営者という設定で、様々な条件のもと利益アップをするためにはどのような取組を行うべきかを考えさせた。

(例) 過去10年間の入場者数や売上高、地域別・年代別の来場者数、来場者のアンケートなどのデータを基に、設備投資に力を入れるのか、スタッフの質を向上させるのか、それとも広告・宣伝を増やすのかなど、最も優先すべき事業を決め、発表をする。

ほとんどの生徒が、スタッフの質を向上させるという内容であった。投資をすることや、広告宣伝費を増やすことには、あまり実感がわいていなかった。これまでの経験や、多額の資金を扱ったことがないということを踏まえると無理もない。

この教材を活用して、会社は利益向上を図るだけでなく、社会的責任を果たすための努力義務があることを体験的に学習できたのではないかと考える。一方、会社を発展させていくためには「お金」は欠かせないが、そればかりに目を向けてはいけないことに気付いたのであろう。

(エ) 実データを用いた経営分析を通じて経済や金融の現状を知る授業実践（3年 簿記、資料10）

同業種3社を選ばせ、有価証券報告書の業績データを使い、安全性、成長性、収益性の観点で、それぞれ様々な指標を用いて、比率や伸びを計算させた。計算にとどまらず、結果から見える企業の現状や企業を取り巻く経営環境などを思考させ、各自でまとめさせ発表させた。

この実践を通じて、有価証券報告書の内容を理解するには簿記会計の知識や技術が欠かせないこと、身近な企業の強みや弱みが発見できること、そして経済が企業に与える影響などを感じ取ったようだ。

4. その他の取組：エコノミクス甲子園（資料11）

昨年度より商業科目の上位検定を取得している生徒に声をかけ岡山大会に参加した。参加にあたり、主催者から送られてくる教材を教員が予め読み込み、その教材から1問1答クイズ形式のプリントを他校の教員と共同作成し、テキストと併用して指導を行った。

昨年度は予選ラウンドを通過することができなかったが、本年度は予選ラウンドを1位通過し、その勢いを持って決勝ラウンドも制し優勝し、全国大会に出場することができた。結果に対して大きな自信を得たことはもちろん、経済・金融に関する知識が身に付いたことで、経済に関するニュースや新聞記事の内容が理解できるようになるとともに、こうした情報に興味を持つようになったことが大きな収穫ではないかと考える。

5. 成果と課題（資料12）

定時制高校においては、多くの生徒が仕事をしていることから全日制課程の生徒以上に社会性が身に付いていると思われるがちであるが、実際、多くの生徒は高校入学以前に不登校やいじめなど何らかの困難を経験しており、コミュニケーションをとることを苦手としている。仕事を始める、仕事を頑張るだけで大きな成長があったと周囲は安堵するのが現状である。よって就労を通じて将来のライフプランや、お金とのつき合い方などについて深く考え抜く段階には至っていない。

そこで、地域や外部の協力をいただきながら、学校全体で「金融」という1つのテーマに対して様々な取組を行い、生徒の金融・経済の知識やスキル、そしてコミュニケーション力が少なからず向上したのは確かである。とりわけ校外活動においては、実際のお金やモノの流れを知り、多くの人と関わることで新たな発見や交流が生まれ、自己肯定感が高まった。また進路の道筋を少なからず描けた生徒がいるのではないかと感じている。

加えて、教員の金融教育に対する意識や授業力の向上に繋がったのも確かである。授業をはじめ様々な取組の中に「金融」という要素を織り交ぜながら進めたことで、授業計画や教材の作成において協力・連携が図れた。ただ教科によっては「金融」に触れる内容が少なく、教科間の連携が不足していた部分もあった。学校全体で生徒に金融に関してどのような力を、いわゆる金融知力をつけさせるのか、そしてどこまで求めていくのか共通理解を図り、取り組んでいく必要がある。

資料1 指導計画書1 (平成25年度金融教育年間計画)

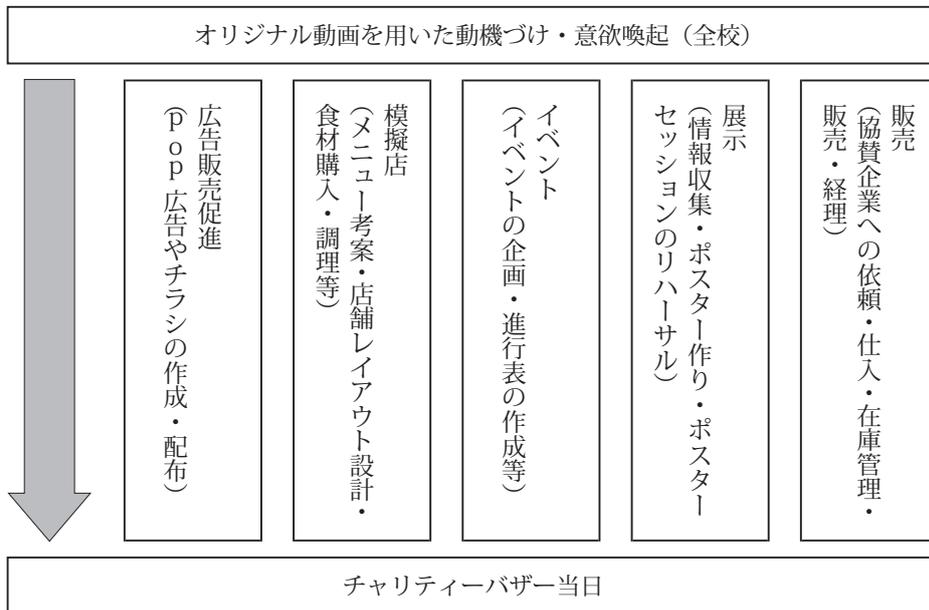
学年等	取組内容【教科(科目)】	育成目標				
		金融や経済に関する 基本的な知識・技術	お金やモノを大切に する心や知恵	職業観・勤労観	消費生活・金融トラブル 防止に関する知識	生活設計・家計管理能力
1 年	エコノミカを利用した経済ゲーム 【総合的な学習の時間】	○				
	経済情報番組を活用したワークショップ 【商業(ビジネス基礎)】	○				
	岡山まちの夢学生発☆実現プロジェクトへの参加 【学校設定教科(社会科学入門)】		○			
2 年	個人企業を対象とした決算書の作成【商業(簿記)】	○				
	外部教材(ケーザイへの3つのトビラ)を活用した教育実践【総合的な学習の時間】	○				
	インターンシップ【特別活動】			○		
3 年	新聞作り【国語(現代文)】		○			
	エコノミカを利用した経済ゲーム 【総合的な学習の時間】	○				
	銀行員による金融教育講座【総合的な学習の時間】	○			○	
	実データを用いた経営分析を通じて経済や金融の現状を知る授業実践【商業(簿記)】	○				
	インターンシップ【特別活動】			○		
4 年	職業&収入調べ【総合的な学習の時間】					○
	一校一品運動【商業(課題研究)】		○			
	外部教材(これであなたもひとり立ち)を活用した教育実践【家庭(家庭総合)】					○
	インターンシップ【特別活動】			○		
全 校	チャリティーバザー【特別活動】	○	○			

資料2 指導計画書2 (平成26年度金融教育年間計画)

学年等	取組内容【教科(科目)】	育成目標				
		金融や経済に関する基本的な知識・技術	お金の大切にする心や知恵	職業観・勤労観	消費生活・金融トラブル防止に関する知識	生活設計・家計管理能力
1 年	金融機関の会社見学【総合的な学習の時間】	○		○		
	経済情報番組を活用したワークショップ【商業(ビジネス基礎)】	○				
	金融教育公開授業【商業(ビジネス基礎)】		○			
2 年	個人企業を対象とした決算書の作成【商業(簿記)】	○				
	インターンシップ【特別活動】			○		
3 年	新聞作り【国語(現代文)】		○			
	生涯賃金の計算【総合的な学習の時間】					○
	金融教育公開授業【地歴(日本史A)】	○				
	金融教育公開授業【家庭(家庭総合)】					○
	インターンシップ【特別活動】			○		
4 年	年金事務所所員による年金講座【総合的な学習の時間】					○
	一校一品運動【商業(課題研究)】		○			
	外部教材(これであなたもひとり立ち)を活用した教育実践【家庭(家庭総合)】					○
	インターンシップ【特別活動】			○		
全 校	チャリティーバザー【特別活動】	○	○			
	金融広報アドバイザーによる講演会【特別活動】	○			○	
	文化祭における「お金」をテーマにした展示【特別活動】		○			○

資料3 チャリティーバザーの活動内容と活動の様子（平成25年度）

(1) チャリティーバザーの活動内容



(2) 当日の様様



「もったいない」をテーマにしたビデオ映像の視聴の様子



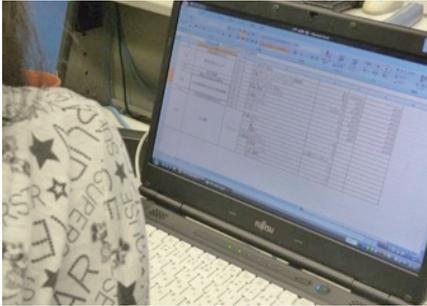
販売・接客指導や服のたたみ方講習の様子



パソコンを使ってチラシを作成している様子



チャリティーバザー当日のレジでの接客の様子



パソコンを使って在庫管理表を作成している様子



売上伝票を基に売上金額を集計する様子

(3) 来場者アンケート及び生徒の感想

○ 来場者アンケート (抜粋)

- ・とても良かったです。近くに住んでいますが、学校の中に入れていただいたのは初めてです。生徒さん達はとても感じの良い方ばかりです。勉強頑張ってください。
- ・被災地への寄付になるのは素晴らしいと思った。
- ・チラシで初めて知りました。近くに住んでいて、中の様子は知らなかったので親しみが持てました。先生も学生さんも明るくて気持ち良かったです。おでんの持ち帰りができなくて残念でした。

○ 生徒の感想 (抜粋)

- ・もっとお客様の流れを良くする工夫が必要だと感じた。
- ・予想以上のお客様が来られ、忙しかった。販売員が不足していた。
- ・売上金額の計算をした結果、伝票の合計金額と金庫の合計金額が大きく違った。おつりを間違えたり、電卓を間違えて打ったりしたことが原因ではないかと思う。

資料4 活動の様子 (文化祭における「お金」をテーマにした展示)



モノの価格についてタブレットPCとチラシから得られる情報を比較している様子



模造紙にまとめた内容を記入する様子



まとめた資料を片手にポスターセッションをする様子



展示物の一部 (学資保険)

資料5 公開授業および講演会の日程と内容

(1) 当日プログラム

平成 26 年 11 月 17 日 (月)	
17:40 ~ 18:20	公開授業 <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス基礎 (1年) 「社会を豊かにするためのお金」 ・日本史 A (3年商業科) 「物価変動から考える流通システム」 ・家庭総合 (3年普通科) 「いのちを育むお金」
18:30 ~ 18:35	開会挨拶 倉敷市立精思高等学校校長 西崎 誠
18:35 ~ 19:45	講演 「みんなで幸せになろう! ~笑う門にはカネ来たる~」 FP / 生活経済ジャーナリスト いちのせ かつみ 氏
19:45 ~ 19:50	閉会挨拶 岡山県金融広報委員会委員 川名 良二
20:00 ~ 20:20	研究発表・研究協議 <ul style="list-style-type: none"> ・本校の金融教育の取り組みについて ・授業者説明 ・質疑応答
20:20 ~ 20:30	指導・講評 岡山県教育庁高校教育課 指導主事 (副参事) 杉野 方美 氏 岡山県教育庁高校教育課 指導主事 (主幹) 田坂 紀子 氏

(2) 当日の様子



ビジネス基礎 (1年)
「社会を豊かにするためのお金」



日本史 A (3年商業科)
「物価変動から考える流通システム」



家庭総合 (3年普通科)
「いのちを育むお金」



「みんなで幸せになろう! ~笑う門にはカネ来たる~」
いちのせ かつみ氏 (FP / 生活経済ジャーナリスト) による講演の様子

(3) 公開授業・講演会終了後に実施した生徒アンケートの集計結果 (一部)

Q. 本日の授業や講演会を聞いて「おかね」について

①わかったこと・今後、役に立ちそうだったこと

- ・自分に投資することで人生はうまくいく。
- ・お金は使うためにあるもの。
- ・普段、当たり前のようにある物にも、いろいろな工夫がされている。
- ・お金の損得がわかった。
- ・うまい話にはのらない。
- ・チラシをよく見ないと損をする。
- ・お金は借りたらダメ。
- ・フリーターよりサラリーマンになった方が良かった。

②わからなかったこと・もっと説明してほしいところ

- ・サラリーマンとフリーターの収入について詳しく知りたかった。
- ・どう注意すべきか具体的に知りたかった。
- ・ポイントカードの意味を教えて欲しかった。
- ・実体験を聞いたかった。

Q. 本日の授業や講演会のような勉強をどう思いますか (〇は2つまで)。

質問内容	回答数	割合
1. もっと多くの時間を使って学びたい	20	24.1%
2. 大切であり、社会へ出る前に学校で勉強しておくべきものだと思う	41	49.4%
3. 大切な勉強だが、受験勉強や主要教科の学習の方が大切だと思う	8	9.6%
4. 学校でお金や金融に関する勉強は不要だと思う	3	3.6%
5. 本来、家庭で学ぶものだと思う	1	1.2%
6. つまらないし、興味をもてない	9	10.8%
7. その他	1	1.2%

(その他の記述) ・学校でも家庭でも学ばなければいけない。

資料6 一校一品運動



震災被災者への思いをメッセージに込める様子

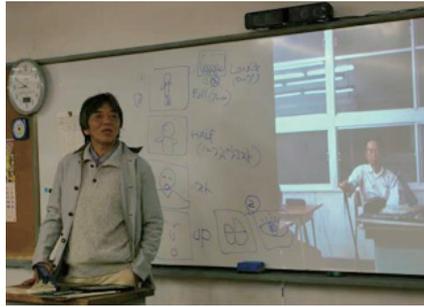


県内大学の学園祭にて販売を行う様子

資料7 岡山まちの夢学生発☆実現プロジェクトへの参加



取材活動の様子



外部有識者による授業の様子



CM制作活動の様子



「岡山まちの夢 学生冬フェス」での発表の様子

資料8 銀行員による金融教育講座及び経済ゲーム体験

(1) 概要

学習名	銀行員による金融教育講座及び経済 TCG エコノミカを利用した経済ゲーム
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・銀行の業務や役割について理解する。 ・消費生活・金融トラブル防止に関する知識を習得する。 ・お金を使うこととお金を貯めることの知恵と知識を身に付ける。 ・実習を通じて、経済や金融の仕組みを理解し、経済や金融への関心を高める。
日程 および 内容	<p>平成 26 年 2 月 19 日 (水)</p> <p>(1) 講義 (15 分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 銀行の業務と役割 ○ クレジットカードの落とし穴 ○ お金の貯め方と使い方 <p>(2) 実習 (60 分)</p> <ul style="list-style-type: none"> (I) ゲーム概要とルール説明 (II) 実習 (III) 振り返り・まとめ <p>(3) 質疑応答 (5 分)</p> <p>(4) アンケート記入 (5 分)</p>
講師	<p>株式会社 中国銀行 総合企画部 広報 CSR センター 業務役 山本 稔 氏</p> <p>株式会社 中国銀行 総合企画部 広報 CSR センター 業務役 川口 哲生 氏</p> <p>認定 NPO 法人 金融知力普及協会 事務局長 鈴木 達郎 氏</p>

(2) 当日の様子



銀行員による講演の様子



エコノミカを使って経済ゲームに取り組む様子

資料9 金融機関見学

(1) 概要

期日	平成27年1月21日(水)
会場	中国銀行本店
13:30～13:50	開講挨拶、講義
13:50～14:10	資金証券部見学
14:10～14:30	本店営業部見学
14:30～14:50	展示室見学
14:50～15:00	質疑応答、閉講挨拶

(2) 活動の様子



真剣に講義を受ける様子



模擬紙幣を持ち上げる様子



株価ボードを前に記念撮影

資料10 実データを用いた経営分析を通じて経済や金融の現状を知る授業実践

(1) 有価証券報告書の業績データから様々な指標を用いて生徒が作成した分析レポート

3年生 簿記 経営分析 レポート

(現 期)

同じ業種(例えば、自動車ならトヨタ自動車、日産自動車、本田技研工業)に属する会社を3社選び、幅広い角度から経営分析を行い、レポート提出しなさい。ただし、EDINETを利用して各社の有価証券報告書を用いること。なお、指標については、授業で用いた指標に限らず、様々なWebサイトを利用して、各自使用すること。

会社名	指標	会社A	会社B	会社C
企業概要 (本社所在地、沿革、従業員、事業内容、取扱商品など)		コニエクスポート 2016年 1950年12月〜 本社 福岡県福岡市 支社 福岡県福岡市	55社 164店舗	
収益性	売上総利益率	3.22%	0.25%	0.76%
	売上総利益	26.36%	21.44%	16.70%
	営業利益率	3.47%	0.34%	1.18%
	営業利益	12.47%	1.18%	2.85%
安全性	流動比率	118.34%	49.83%	71.62%
	固定比率	142.93%	282.90%	251.52%
	自己資本比率	44.02%	28.74%	21.50%
成長性	経常利益率	6.61%	1.68%	3.67%
	経常利益	16.77%	0.004%	11.02%
	純利益率	13.28%	-3.29%	0.77%
	純利益	5.21%	-0.72%	1950/0.08%
分析結果・感想 (評価できる点、問題点、改善点等)	<p>分析結果・感想 (評価できる点、問題点、改善点等)</p> <p>10%以上上昇!! 企業財務の質的改善 着実に前進!! 株価は5年間で 2倍の水準になった 株主の利益は2倍</p> <p>純利益率1%未満 売上総利益、営業利益 売上総利益、前年より down。(1000万円) (4000万円) 4倍 前年よりdown 経営危うい!! 流動比率、固定比率 低コストで利益が大きい</p>			

(2) 分析レポートを基に、発表に向けて作成したプレゼンシート

経営分析 プレゼンシート

◆プレゼンテーションのポイント (ジュニアプレゼン協会 指標カリキュラム)

項目	注意点
◎ シンプルに伝える	自分の思いを全て言わない
◎ 具体的に伝える	なぜそう考えたのかを説明する
感情を伝える	エピソードを盛り込む
面白いストーリーを作る	ジョークを盛り込む
◎ 自信を持って話す	自分をさらけ出し、自然に振る舞う
かつこい資料を作る	視覚に訴える

(発表内容)

項目	内容																				
取り扱った3つの会社の概要を簡単に説明する。(本社、取扱商品、従業員、店舗数)	<table border="1"> <tr> <td>本社</td> <td>店舗数</td> <td>P/B</td> <td>割合</td> <td>3社共 売上と利益</td> </tr> <tr> <td>日黒区</td> <td>255</td> <td>有</td> <td>有</td> <td>取扱商品は日本の</td> </tr> <tr> <td>福岡</td> <td>55</td> <td>有</td> <td>無</td> <td>フード以外のほとんど</td> </tr> <tr> <td>福岡市</td> <td>164</td> <td>有</td> <td>有</td> <td>同じ商品〜家電まで</td> </tr> </table>	本社	店舗数	P/B	割合	3社共 売上と利益	日黒区	255	有	有	取扱商品は日本の	福岡	55	有	無	フード以外のほとんど	福岡市	164	有	有	同じ商品〜家電まで
本社	店舗数	P/B	割合	3社共 売上と利益																	
日黒区	255	有	有	取扱商品は日本の																	
福岡	55	有	無	フード以外のほとんど																	
福岡市	164	有	有	同じ商品〜家電まで																	
収益性 (どの会社がどの点で優れているのか、もしくは、どの会社がどの点で劣っているのかを理由を付けて説明する) ドキの強弱	3社とも売上を売りにしているため、利益は売上に対して低い。日黒区は地域も高く、ブランド品を置いているため、利益は1番高い。																				
安全性 (どの会社がどの点で優れているのか、もしくは、どの会社がどの点で劣っているのかを理由を付けて説明する)	Mr. More TRSAは流動比率が100%以下、固定比率は200%以上で、在庫が多量に積まれている。負債も多量に積まれている。ドキの強弱もあまり関係ない。消費財を置いているので、コストの負担も大きい。Mr. Moreは利益が出ているので、リターンも高い。TRSAは利益が出ない。海外に物流センターを設けている。																				
成長性 (どの会社がどの点で優れているのか、もしくは、どの会社がどの点で劣っているのかを理由を付けて説明する)	ドキが圧倒的に強い。TRSAは中国に拠点を設けている。中国に物流センターを設けて、ITに力を入れている。中国と600人を派遣して、物流効率の向上を図っている。ドキは5年間で利益は2倍の水準に到達している。																				

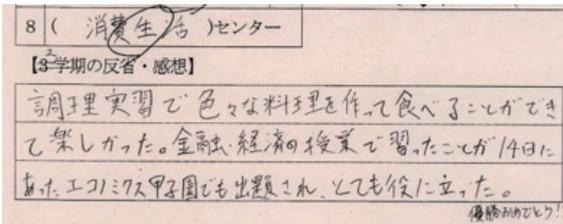
資料11 エコノミクス甲子園



大会当日の様子



優勝トロフィーを前に記念撮影



参加した生徒が大会の感想を書いた定期考査の答案

資料12 生徒および教員の観点でまとめた成果と課題

	生徒	教員
成果	<ul style="list-style-type: none"> 身近なテーマに全体で金融教育について取り組めた。 相手の立場に立って、コミュニケーションがとれていた。 コミュニケーション力が少しついた。 家計の予算の立て方、物件の契約の仕方等を、演習を通して楽しみながら学ぶことができた。 お金の使われ方、流れについての意識が高まってきた。 生徒が自ら調べたり、調べたいと思ったりする内容が多く、非常に良かった。 金融について考える習慣づけができた。 生徒一人一人の商品の選択が、政治や経済に直結しており、今の地球規模でのグローバルな社会につながっていることを学ぶことができた。 知識が増え、スキルが増した。 高校卒業後の進路についての意識が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業や講演会など、地域の人々を巻き込んで取り組むことができた。 外部の機関と連携して、授業づくりができています。 お互いフォローしあえる雰囲気できた。 卒業を目前にして、自立に必要な経済的な知識を教えることができた。 生徒の4年間を見通した指導を行うことができた。 どのような教材が生徒にとって有意義かを吟味することができた。 生徒の金融に関する知識を把握できた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 1年生から4年生まで学ぶ内容につながりがもっとあれば良かった。 クレジットカードについて、資料のレイアウトが複雑で分かりにくかった。 身近なものへの意識は高くなりつつあるが、日本経済など、広い視点への意識付けはまだまだである。 科や学年でばらつきがあった。 校外での活動は、より多くの生徒に体験させてもよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> どこまで生徒にやらせるか、どんな力をつけさせたか、明確なねらいが必要である。 教材は、使用する学校・学級の実態に合わせてアレンジする必要がある。 教科によっては積極的に取り組むことが難しく、全体での連携について課題がある。 エコノミカで、もう少し説明の時間があれば良かった。 教科間連携がやや不足していた。